東典禮

①町田市小山ヶ丘1-11-14　③1か所
②伊藤健吾　④360～400件弱

創業35年、若手三代目が経営・イメージ刷新に奮闘

代表取締役社長
伊藤健吾氏

東典禮は、1976（昭和51）年に現社長伊藤健吾氏の父親が相模原市で創業し、すぐに町田市内の、火葬場前にある現在地に移転。創業者の死後は健吾氏の母親がそのあとを継ぎ、現在三代目である。

全葬連のホームページなどを見ると、住所を町田市内で登録して全葬連傘下の組合に所属する葬祭業者は4社あるが、うち3社が神奈川県葬祭業協同組合（全体83社）に加盟、東典禮は東京多摩葬祭業協同組合に属している。

創業当時からプレハブの簡易な式場を運営していたというが、現在の本社を兼ねた会館は、8年前に建て替えたもの。1階、2階にそれぞれ障害者用トイレを設けたバリアフリーの設計で、1階に70席、2階にもそれぞれ50席、25席の式場と、規模の異なる3式場を備えている。それぞれシャワールームやキッチンのついた遺族控室、導師控室、会食室をセットにして用意しているが、施行は最大1日2件までに抑えているという。駐車場は、40台分あるほか、周辺でも30台ほど確保できる。

同社は、相模原市内のJR横浜線矢部駅前に相模原営業所を設けて、仏壇・仏具も販売している。スタッフは、2か所を合わせて30人ほど（パートタイマーなどを含む）にのぼる。

流入する新住民に対して会館認知を図る

伊藤氏は「コスト意識が問われる状況です」と、現在の心情を吐露する。遊歩道をはさんで、会館にほぼ隣接する公共火葬場・南多摩斎場に、昨年新たに祭壇を常設した式場が供用開始されたためだ。

市内の会館使用料の相場は15万～20万円程度とみられるが、同社ではこれを5,250円とすることで、祭壇料などを含めた基本料金が、南多摩斎場を利用した場合とほぼ同額で同社の会館を利用できる。葬儀費用の総額が公共式場を利用した場合と同程度なら、より融通が利き、便利に使える同社の会館がメリットがあるとアピールしているのである。また、他社の会館に比べると火葬場への移動が短い点や、出入り業者が会館まで出張してつくりたての中華料理を提供することもできる、といったメリットも強調している。

これまで同社の受注は、病院などからの紹介や、地域でのつきあいによるものが多かったという。病院との関係を重視し、民間救急車3台を保有して、転院の際や病院関係者からの要望に応じて搬送も行なってきた。逆にいえば、さまざまなメディアを利用した広告宣伝にはそれほど力を入れてこなかったということでもある。

伊藤氏が「昔は、火葬場と病院しかなかった」と語る同社の周囲は、昨今の経済情勢にもかかわらず土地の値段が上昇しているといい、ショッピングセンターやマンション、戸建て住宅、さらに高齢者施設などがつぎつぎに建ち、新たに小中学校が開設されるなど、比較的若い世代の人口が急増している。こうした新しい住民にも、会館の認知を進めていくメリットは大いにあるだろう。

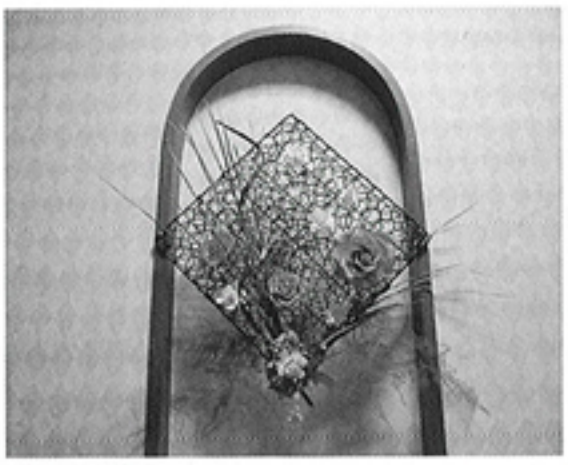
8年前に建て替えた「東典禮本社葬祭場」

絵画を飾る会館前の掲示板

会館周辺は遊歩道が整備されて、近隣住民の散歩コースともなっている。会館前に設置している飲み物の自動販売機2台は、暑い時期には1日で売り切れることもあるというほど、利用者が多い。こうした人たちに向けても、掲示板を設けて絵を掲示したり、空いたスペースを利用してガーデニングを施すなど、会館への親しみをもってもらうよう努めている。また、近くにあるペット霊園が主催する慰霊祭の会場として会館を貸し出すなどで、周辺住民に会館を訪れてもらう機会をふやしていこうとしている。

さらに伊藤氏は、今後、ホームページの整備、チラシのポスティング、野立て看板設置、寺院でのイベント参加などにも早急に取り組んでいきたいとしている。

同社が所属する東京多摩葬祭業協同組合では、組合のホームページ開設に向けて準備を進めており、伊藤氏もこれに参画している。同時に自社のホームページ制作も進め、互いによさを引き出し合う見せ方を探っている。コンテンツには、葬儀についての知識や葬儀費用の見積り例などを入れていく予定だ。



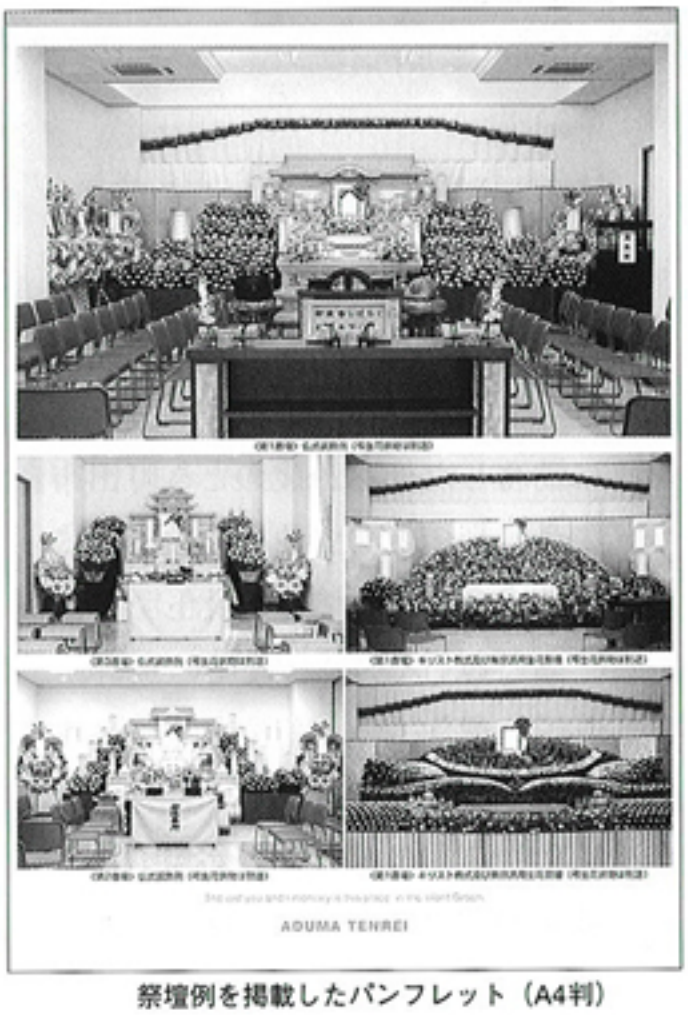
館内の花飾り

プリザーブドフラワーの多彩な利用でファン獲得

また、伊藤氏は最近プリザーブドフラワーに注目し、これを活用できないか模索している。

プリザーブドフラワーは、専用の溶液を用いることにより、生花の保存期間を長く保つことができ、着色することもでき、多様な色彩が表現できる。水を与えなくてもすぐに枯れることがなく、花びらの柔らかさや瑞々しさは、通常の生花と比べても遜色(そんしょく)ない。

まずは、会館内の壁掛け飾りとして利用したり、仏壇店で仏壇用の花飾りとして試作品を提案している。つきあいのある老人ホームで行なわれる音楽会などのイベントで、テーブル花としてプリザーブドフラワーを使用、さらに遺影まわりや祭壇花としても利用できないか、その特色を活かした現代風の祭壇づくりにも取り組もうとしている。



祭壇例を掲載したパンフレット（A4判）

「プリザーブドフラワーは高いというイメージがありますが、上質な造花と比較すればそれほどでもありません。造花は見ればわかってしまうでしょうが、プリザーブドフラワーなら生花と変わりなく、社内でもアレンジできるので、十分に活用できるのではないかと考えています」（伊藤氏）。講師を招いて会館でプリザーブドフラワー教室を開催することも決まっており、同社のファン獲得にもこれを使っていく計画だ。